

## トマト黄化葉巻病の発生を育苗中のトマト苗で確認！

平成21年11月に、京都府農林センター環境部に診断依頼があった京都市内のトマト苗で**トマト黄化葉巻病の発生が確認**された。府内のトマト苗で発生を認めたのは、今回が初めてである。

育苗中（栽培の初期段階）に発病が確認されたことから、媒介虫のタバココナジラミ類防除の徹底が必要である。また、今年度9月以降、京都市と京田辺市のトマトで本ウイルス病の発生を認めている。

タバココナジラミ類は、**露地では越冬できないと考えられているので、以下の事項を参考に、冬の間にはハウス内のタバココナジラミを徹底的に防除**するとともに、発病が疑わしい場合は苗の除去や株の抜き取りを速やかに実施する。

### 基本事項

トマト黄化葉巻病の発生・拡大を防ぐためには、「**トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を絶つ**」ことが必要である。そのためには、トマト黄化葉巻病発生ハウスでは**発病株の抜き取り**を徹底するとともに、**タバココナジラミ防除**のための防虫ネットや黄色粘着ロール及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が重要である。

- (1) 施設内にウイルス・コナジラミを「**入れない**」。
- (2) 施設内・施設周辺のコナジラミを「**増やさない**」。
- (3) 施設内からコナジラミを施設外に「**出さない**」。

### 1 育苗中の注意点

- (1) 発病が疑わしい苗を認めた場合は、普及センター、病害虫防除所に連絡する。
- (2) 発病が確認された場合は、表1を参考にし、高い防除効果が認められている農薬でタバココナジラミ類を徹底防除する。
- (3) 発病が確認された育苗施設では、感染の疑わしい苗の除去を徹底する。

### 2 栽培が終了または終了が近いハウス

- (1) 栽培終了後、直ちに出入口やサイドなどの**ハウス開口部を2週間程度開放し、寒さにあてコナジラミの越冬を防止**する。
- (2) **トマト残さや雑草**はコナジラミの越冬に有利に働くのでハウス内から**除去**する。
- (3) ハウス開放1週間後に黄色粘着板を設置し、コナジラミの残存状況を確認する。

### 3 栽培中のハウス

- (1) コナジラミの密度の上昇が緩慢な低温期に農薬散布を行い、できるだけ密度を低減させる。
- (2) **薬剤がかかりやすいように整枝、せん定**を行う。
- (3) **黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生動向の把握**に努める。
- (4) ハウス内の**雑草を除去**する。

#### 4 これから栽培を始めるハウス

- (1) 施設の**開口部**（サイド、出入口、天窗等）を目の細かい（目合い**0.4mm**が理想）**防虫ネットで被覆**する。
- (2) **黄色粘着ロール**をハウス開口部等に**展張**する。
- (3) **黄色粘着板**を設置し、**コナジラミ類の発生動向の把握**に努める。
- (4) 施設栽培では、**近紫外線カットフィルム**の利用が有効である。
- (5) 育苗時や定植時に**粒剤**を施用するなど防除を徹底する。
- (6) 発病の疑わしい苗は定植しない。
- (7) ハウス内及びほ場周辺の**雑草や野良生えトマトの除去**を徹底する。

#### 5 トマト黄化葉巻病が発生しているハウス

- (1) **発病株**はトマト黄化葉巻ウイルスの伝染源となるので、**見つけ次第抜き取る**。抜き取った株は、土中に埋めるかビニールなどで覆って枯死させる。
- (2) トマトの残さをほ場周辺に放置しない。また、ハウス内の雑草を除去する。
- (3) 栽培終了時に、全ての株を地際から切断するか抜き取った後、ハウスから持ち出し、(1)に準じ処分する。その後、施設を開放（2週間程度）し、寒さに当てコナジラミを死滅させ、その越冬を防ぐ。
- (4) 現在、栽培しているトマトの株元に次作の苗を定植しない。

#### 農薬の使用について

- (1) 登録農薬に対する薬剤感受性の低下を回避するため、**同じ農薬及び同一農薬グループに属する農薬の連用は避ける**。
- (2) 農薬の使用に当たっては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情勢」で最新の農薬登録情報を参照し、適正に防除する。
- (3) 下葉の裏側まで薬剤が十分にかかるように散布する。

表1 トマトのコナジラミ類に効果的な農薬一覧

農薬グループ	農薬名	剤型	使用基準		コナジラミ類	効果*2
			使用時期 【収穫〇日前まで】	使用回数		
<b>【土壌施用剤】</b>						
ネオニコチノイド系剤	アルバリン スタークル	粒剤	育苗期	1回	○	成虫
			定植時			
	ベストガード	粒剤	生育期 但し、収穫前日まで	2回	○	成虫
			播種時又は鉢上げ時			
その他剤	チェス	粒剤	育苗期後半	1回	○	成虫
<b>【茎葉散布剤】</b>						
ネオニコチノイド系剤	アルバリン スタークル	顆粒水溶剤	前日	2回	○	成虫
	ベストガード	水溶剤	前日	3回	○	成虫
IGR剤	アプロードエース	フロアブル	前日	3回	○	幼虫
その他剤	チェス	水和剤	前日	3回	○	成虫
		顆粒水和剤				
	ハチハチ	乳剤	前日	2回	○	幼虫
殺ダニ剤	コロマイト	乳剤	前日	2回	○	幼虫
	サンマイト	フロアブル	前日	2回	○	幼虫、成虫
生物農薬剤	ボタニガードES*1	乳剤	施設：発生初期	-	○	幼虫、成虫

\*1 ボタニガードESは、野菜類として登録されている。

\*2 効果については、京都府農林センターと京都府病害虫防除所による薬剤効果試験結果より(2007年)。

\*3 本表は、平成21年11月19日の農薬登録情報に基づいて作成。